

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	あっぷる保育園鶴ヶ峰（3回目受審）
経営主体(法人等)	社会福祉法人東京愛成会
対象サービス	認可保育所
事業所住所等	〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰2-82-1 ココロット鶴ヶ峰3F
設立年月日	平成17年4月1日
評価実施期間	平成27年10月 ～ 28年3月
公表年月	平成28年4月
評価機関名	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま
評価項目	横浜市板

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）

【施設の概要】

あっぷる保育園鶴ヶ峰は相鉄線鶴ヶ峰駅に直結したビルの3階にあります。同じビル内には、スーパーや商店、医療施設、市民活動支援センター等が入っていて、6階より上は住宅となっています。

園は平成17年(2005年)4月に社会福祉法人東京愛成会によって開設されました。同法人は他に同じ鶴ヶ峰で1園保育園を運営するほか、東京都で保育園を1園、事業所内保育所を1園運営しています。

ビルの中の保育園ですが、園内は窓が大きく明るく、木のぬくもりが感じられます。保育室や廊下も広く、広々としたホールは園庭に面しています。

定員は、120名(0歳児～5歳児)、開園時間は平日は7時～21時、土曜日は7時から18時です。

園の保育目標として「思いやりのある子ども」「心身ともに健康な子ども」「生きる力をもつ子ども」、保育方針として「豊かな心で人を愛する気持ちを育てる」「遊びを通してたくましい心と身体を作る」「夢を持って感動する心を育てる」を掲げています。

◆高く評価できる点

1、子どもたちは、のびのびと遊び、たくさん身体を動かし、園生活を楽しんでます

保育士は、子どもの言葉に耳を傾け、時間がかかっても一人一人が自分の気持ちを伝えられるように援助し、子どもの思いを把握するようにしています。また、子どもの表情や態度、しぐさなどからも子どもの気持ちを把握しています。このようにして把握した子どもの思いや興味、関心を指導計画に反映し、保育を展開しています。

自由遊びの時間には、子どもたちは一人でブロックの大きな作品を作ったり、グループでごっこ遊びをしたりしています。観察日にも、友達同士で相談し、プライスカードを作りレストランの準備をする姿を見ることが出来ました。「ステーキランチ700円」「納豆ごはん900円」「おすすめ いまならももだいふくが100円」など、子どもの素直で自由な発想が遊びの中で展開されています。また、レストラン店長役の子どもがいたり、自然が好きな子どもが公園での探検隊長をやったりと、それぞれの得意分野でリーダー役を務める子どもがいて、遊びを通して集団が育っています。

ビル内の保育園で園庭もテラスで土に触れる機会が少ないため、散歩の機会を多く取り入れています。散歩先での子どもたちは、季節の花や鳥、虫、行き交う近隣住民とその飼い犬、近くの商店など、全てのことに興味を示し、自然への関心や社会性を養っています。また、乳児でもたくさんの距離を歩くことができ、身体能力が育っています。園内でも、リズム遊びやボール、平均台などで、遊びながら身体を動かす機会がたくさんあります。

また、子どもの表現力を培うため、音楽や製作に力を入れています。乳児のリズム遊び、幼児の外部講師による音楽指導などの取り組みの結果、子どもたちは歌が大好きで、散歩などでも子どもたちから歌声が自然にあがっています。また、子どもの製作の記録として「せいさく帳」を作り、毎月1枚ずつ、季節のモチーフで製作した作品を一か月間室内掲示した後、ファイルしています。生活指導にも力を入れていて、保育士は、0歳児からできることは自分でやるように働きかけています。このような働きかけの結果、1歳児の子どもたちでも、外から帰ってきたら、保育士に励まされながらきちんと自分の上着をたたみ、石鹸をつけて丁寧に手を洗うことができます。

このように、子どもたちはのびのびと遊びながら、たくさんのかたちを経験し、心と身体を養っています。

2、保育士それぞれのスキルや特技が保育に活かされています

園では、保育士個々の事情や体調などを把握して勤務体制を整え、保育士が働きやすいよう考慮しています。また、職員同士が自由に発言できるよう風通しのよい職場環境を作っています。職員会議などでは職員は活発に意見を交わしており、日常的に業務改善についての意見や提案をする風土ができています。今回の職員ヒアリングでも、「人間関係が良く、とても働きやすい」という声が多数上がっていました。

このような職場環境の中、保育士はそれぞれのスキルや特技を活かし、のびのびと保育にあたっています。体育遊びや音楽指導、自然遊びなどそれぞれの場面では、子ども一人一人の良さが引き出されていて、保育士一人一人の個性や良さが活かされています。

3、地域の施設として、育児支援を実施しています

園では、地域への子育て支援として、旭区の子育て支援イベント「保育園ひろば」や鶴ヶ峰地区の子育て支援イベント「親子であそぼう」等に参加しています。会場では、手遊びや体操の講習・育児相談等を通じて、地域の子育て支援ニーズを把握しています。また、園主催で、親子体操などの育児講座を地域住民に向け実施しています。

地域への子育て支援サービスとしては、一時保育・園庭開放・育児相談・交流保育を提供しています。特に一時保育は独立した一時保育室を設け、専任の保育士が担当しています。年間を通して一日平均6、7人の子どもたちを受け入れていて、駅前という立地上の利便性もあり人気があります。一時保育の子どもたちが、乳児と一緒に園庭やホールで遊ぶこともあります。また、一時保育児にも絵本の貸し出しをしています。

◆改善や工夫が望まれる点

1、非常勤職員を含む全職員に、理念など園が大切にしていることを周知徹底することが期待されます

園では、保育理念、保育方針を、入職時に説明するとともに、職員会議などで職員間で共有しています。非常勤職員に対しても必要に応じて周知しています。ただし、職員会議は正規職員のみで、非常勤職員は会議録の配布で周知しています。そのため、保育理念や保育方針、保育課程など園が大切にしていることについて全職員で話し合う機会は多くありません。また、言葉遣い等の子どもとの関わり方についても必要時に確認しているものの、職員間で話し合いをしたり全職員を対象に人権研修を行うなど、職員間で意識統一を図るための取り組みも少ないです。

保育士は個々の良さを保育に活かしているものの、園全体としてはやや統一性に欠ける場面があります。今後は、全職員で共有する取り組みを行い、職員全体で進むべき方向性を統一することが期待されます。

2、現在検討中の人材育成計画を完成するとともに、期待水準などを明確にすることが期待されます

園では、人材育成についての大枠はできていますが、それを人材育成計画として文書化すること

はしていません。現在法人施設長の間で、目標達成評価を含む個人別の人材育成シートの導入に向けて検討中です。早急に完成し、理念に沿った人材育成計画を導入されることが期待されます。また、職員が将来について見通しを持って自分自身が必要な知識や能力を確認し、モチベーションを高められるよう、経験や能力、習熟度に応じた役割や責任を期待水準として明文化し、職員に役割や責任に応じた権限を委譲することが期待されます。

3、保護者と良好な関係を構築するための、さらなる工夫が求められます

園では、乳児は毎日、幼児は必要に応じて連絡帳を用いるとともに、朝夕の送迎時に口頭で保護者へ子どもの様子を伝えています。また、園だより・各クラスだより・保健だより等を毎月発行し、情報提供しています。

しかし、保護者アンケートにおいて園の保護者対応について様々な要望や意見が寄せられています。今後は、日常会話やアンケートなどで保護者の意向を丁寧に把握した上で園の方針に納得できるような説明方法を工夫し、保護者との信頼関係をより堅固なものとするための努力を重ねることが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

<p>1.人権の尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育方針は「豊かな心で人を愛する気持ちを育てる」「遊びを通してたくましい心と身体を創る」「夢を持って感動する心を育てる」、保育目標は「思いやりのある子ども」「心身ともに健康な子ども」「生きる力をもつ子ども」を掲げ、利用者本人を尊重したものとなっています。保育の理念や基本方針を玄関に掲示するとともに、職員会議で取り上げ職員に周知しています。 ・個人情報の取り扱いについてのガイドラインを設け全職員に周知しています。保護者に対しては、入園時に配付する重要事項説明書に明記し説明しています。園のホームページ上に子どもの写真が載ることの可否についても予め承諾を得ています。 ・子どもの発言については、他児が遮ることの無いように配慮し、時間がかかっても一人一人が自分の気持ちを伝えることの出来るように援助しています。
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士は、子どもの態度や反応、表情などから子どもの意思を汲み取っています。言葉で表現することができる子どもからは、意見や要望を聞いています。子どもの好きなことや関心があること、興味を持っていることを指導計画に取り入れています。 ・地面の園庭がないビル内の保育園の為、出来る限り散歩に出かける機会を作っています。近隣には自然豊かな公園が多くあり、戸外遊びを十分楽しんでいきます。毎年秋には、芋ほりのイベントもあります。 ・子どもの表現力を培うため、外部専門講師による音楽指導を取り入れています。また0歳児クラスから日常的にリズム遊びを取り入れ音楽と体の動きを楽しめるようにしています。 ・異年齢交流は、3・4・5歳児クラス全体を4グループに分けて活動する「なかよし」を月に1、2回取り入れています。また年明けからは進級するクラスに慣れるための取り組みとして、上のクラスと一緒に過ごす時間を設けています。こうした交流は年下の子どもへの思いやりや年上としての責任感を育む機会と

	<p>なっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士が子どもに食べることを強制することはなく、苦手な食べ物は一口だけでも食べてみるように促しています。3歳児以上のクラスでは、盛り付けを自分で行うため食べられる量を自身で把握できるようになっています。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や状況に応じて、年間指導計画、月案、週案を作成しています。 ・園内はバリアフリーとなっていて、障がい者用のトイレも完備しています。 ・西部地域療育センターや旭区の臨床心理士の巡回指導でアドバイスを受けています。また、職員は、地域療育センターの見学や横浜市の統合保育の研修などに積極的に参加しています。 ・相談・苦情受付担当は主任、相談・苦情解決責任者は園長で、第三者委員に直接苦情を申し立てることができます。 ・健康管理、感染症への対応、衛生管理などの各種マニュアルがあり、職員に周知しています。 ・全職員で感染症まん延予防のために嘔吐処理の実践研修を行っています。また、保育室の水回りには写真でわかりやすく作成した「下痢・嘔吐時の対応マニュアル」「嘔吐物・排せつ物の処理」「消毒液の作り方」を掲示し、マニュアルを活用しています。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への子育て支援として、旭区の子育て支援イベント「保育園ひろば」や鶴ヶ峰地区の子育て支援イベント「親子であそぼう」等に参加しています。 ・地域への子育て支援サービスとして、一時保育・園庭開放・育児相談・交流保育を提供しています。特に一時保育は独立した一時保育室を設け、年間を通して一日平均6～7人の受け入れをしています。 ・保育園の行事には、交流保育の一環として「たなばた・なつまつり会」・「運動会」・「クリスマス会」に地域住民に参加を呼びかけ好評を得ています。 ・地域の民生委員・主任児童委員等との連絡会に毎年参加し、保育園の理解促進を図っています。 ・子どもたちの地域との交流として、小学校とは鶴ヶ峰小学校での運動会開催や5歳児の学校訪問、近隣保育園とは5歳児同士の就学する学区ごとの交流、姉妹園とは日常的な訪問や合同の芋ほりなど、様々な機会を作っています。また例年秋の行事として地域ケアプラザに高齢者を訪問する「おじいちゃんおばあちゃんと遊ぶ会」を行っています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な意思決定については、職員および保護者に丁寧に説明しています。今後は、事前に保護者にアンケートを取るなどして保護者の意向を確認した上で園の方針への理解を求めるなど、保護者と密に意見交換するためのさらなる工夫が期待されます。

5. 運営上の透明性の確保と継続性

- ・昨年度から横浜市の様式を用いて主任、乳児・幼児リーダーで自己評価を始めたところで、保育園の理念や方針、保育課程を評価に反映するまでには至っていません。
- ・サービス規程に組織及び職員が不正・不適切な行為を行わないよう守るべき法・規範・倫理等が明文化されています。入職時に説明するとともに、職員資質向上マニュアルにも明記し、正規職員に配布しています。
- ・運営法人のホームページで経営・運営状況を公開しています。
- ・園長は横浜市私立保育園園長会や旭区園長会の各種会議や研修に出席し事業運営に影響のある情報を収集・分析しています。重要な情報は、主任や乳児リーダー、幼児リーダー、クラスリーダーで協議し、重点改善課題として設定され、職員会議で報告し、保育園全体としての取り組みとしています。
- ・園としての年度ごとの事業計画は作成していますが、中長期計画はありません。
- ・運営法人の園長・経営者会議で次代の組織運営に向けての新たな仕組みについて話し合っています。

6. 職員の資質向上の促進

- ・人材育成についての大枠は決まっていますが、人材育成計画として文書化はされていません。
- ・職員は、目標シートに自分の目標を記載し、それに基づき園長面談で目標設定と達成度の評価を行っています。
- ・研修担当は主任で、保育士の経験や能力、希望等を考慮して個人別研修計画を作成しています。トイレトレーニングや箸についての内部研修のほか、旭区の臨床心理士による内部研修も実施しています。外部研修としては、横浜市や旭区などが主催する研修に積極的に参加しています。研修に参加した職員は、研修報告書を提出するとともに、職員会議で研修報告をしています。
- ・非常勤職員に対して嘔吐処理やAEDなどの実践研修を実施していますが、保育の資質に関する研修は実施してなく、課題となっています。
- ・指導計画や保育日誌には自己評価の欄があり、定型化されています。自己評価は、計画で意図したねらいに沿って行われています。自己評価の結果は、次期の計画に反映しています。
- ・経験・能力や習熟度に応じた役割を期待水準として明文化するまでには至っていません。職員のモチベーションを高めるためにも、文書化することが期待されます。
- ・職員会議などでは職員は活発に意見を交わしており、日常的に業務改善についての意見や提案をする風土ができています。また、年2回、園長は、非常勤を含む全職員に対して面談を行い、職員の満足度や要望を把握しています。